

(別紙4) 平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100374		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家 福部		
所在地	鳥取県鳥取市福部町湯山1433		
自己評価作成日	平成26年8月31日	評価結果市町村受理日	平成26年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取市伏野1729番地5		
訪問調査日	平成26年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの特色を活かし、定期的に席の配置等変更をしたり、職員が間に入るなどして利用者同士のなじみの関係作りを勧めている。 ・季節の物を施設に飾ったり、季節にちなんだ行事を行うことで季節感を感じていただけるような支援を行っている。 ・市町村担当者・地域住民代表者等に施設の取組みへの理解を持っていただくために、運営推進会議以外での交流も持てるように心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本人の気持ちを優先に自分のペースで生活できるよう配慮したサービスを提供されています。利用者が”地域の中で楽しく笑顔で生活できるよう支援する”を実現するため、運営推進会議においても、地域交流について意見交換が行われています。また、災害時の避難訓練は地域の方の協力を得ながら実施されており、避難時に地域の方でも車いすの方、歩行が可能な方がわかるよう居室前に目印を付けたらどうかなど具体的な提案を受け、対応されるなど協力体制が築かれています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内三カ所に掲げ職員のみならず、来所される方にも認識してもらえるようにしている。また、理念の振り返りを職員と踏まえ実施し去年理念の内容見直しを行い意識しながら実践出来るよう努めている。	昨年職員で話し合い、“個性を大切に”“地域の中で楽しく笑顔で生活できる”よう支援するという新しい理念がつけられ、本人のペースを大切にされた支援が行われています。理念は事業所内に掲示され、会議等の前に職員で唱和するなど、職員間での共有が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、地域の清掃活動に参加をしたり、避難訓練等の取組みにも地元消防団の協力をいただいている。日頃より地域委員の方とは、施設・地元についての意見交換を行い交流に繋げている。	地域の納涼祭への参加や文化祭への作品出展、近隣の保育所等と交流を図られています。また、運営推進会議において、地域交流について意見交換が行われ地域住民と積極的な関わりが持てるよう取り組んでおられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で施設での取り組み等を説明させていただき情報の公開を行うことで認知症の方、施設への理解を深めていただけるようお伝えしている。また、質問、意見、要望等には丁寧に説明させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見、要望等を活かしサービス向上に役立てている。委員の方々の施設訪問、利用者様本人、利用者様家族に会議出席をしていただくことで、施設の内情把握をしていただけるように努めている。	会議では、事業所の状況を報告し、災害、重度化、感染症についてなど意見交換が行われ運営に活かされています。スペースの問題により事業所外での開催ですが、会議前に事業所見学をしていただくなど工夫をされています。また、利用者も参加できるよう調整をしておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議委員でもある市町村担当者とは運営推進会議のみではなく、日頃より、メール・電話・訪問等を行い事業所の実情・サービスについて報告・助言をいただいている。	運営推進会議に出席いただき事業所の状況を報告しているほか、日頃から市担当者や地域包括支援センター職員と連絡を取り、手続きやサービスについて相談しておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全を第一に考えながら、職員の連携、見守り、声掛けを行い身体拘束しないケアを心掛けている。また、拘束に関する研修会にも積極的に参加している。	法人が実施する身体拘束に関する研修会に参加しており、事業所内で復命研修をされています。玄関は日中は解放されており、自由に出入りすることができます。職員は利用者の様子を見守りながら拘束のない自由な暮らしを支援しておられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待が見過ごされることがないように、課題が起これば会議等で話し合うようにしている。虐待防止の為の研修会にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談・必要性があれば活用できる準備は整っており、利用者様の中にも成年後見制度を利用されている方もおられ、司法書士との意見交換も毎月行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約内容、重要事項の説明を丁寧に説明させていただき、家族の疑問、不安があればその都度分かりやすくお答えしている。契約後にも疑問等あれば安心・納得されるよう説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見・要望を聞く機会を設けている。面会時は家族が話しかけやすい環境提供を心掛け担当者が変わればその都度挨拶している。利用者様にも意見・要望の訴えがないか個別で支援を行っている。	利用者との会話を大切に、その中から意向を読み取るよう努めておられます。年に1回、家族会を開催し意見交換の機会を設けられたり、意見箱を設置されています。また、毎月の便りでは、たくさんの写真を掲載するなど工夫し、日頃の利用者の様子を伝えておられます。	毎月の便りを家族に送られるときに意見用紙を同封されるなど、事業所が提供するサービスについて意見・要望がいただけるよう工夫されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議・研修・カンファレンスを月に1回づつ開催して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。またそれが、施設運営に反映できるように心掛けている。	日ごろから職員は気が付いたことがあれば、管理者に伝えるという関係が築かれています。利用者の支援のあり方や勤務体制について等、職員からの意見や提案は毎月の職員会議で話し合わせ、事業所の運営改善に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心、やりがいを持って働ける環境づくりに努め、職員の意見、要望等には積極的に聞き入れてはいるが、給与や職場環境等十分でないことがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などの取り組みを、内外ともに積極的に行っており、研修希望なども考慮している。また、施設内研修では職員自ら研修発表することで、個人の主体性・チームケアの連携が深まるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	わかばの他施設との交流の場は定期的に設けられており、また、運営推進会議委員の地元施設の管理者・職員との交流も運営推進会議を通じ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安・要望を聞かせていただき、安心・納得していただけるように説明・対応をさせていただき、良好な関係が保てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、これまでの経緯、不安な事に耳を傾け、安心していただけるように努めている。また、気軽に来所・ご相談できるような環境づくりを行い、身近な相談窓口として担当者を配置している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具使用に関しては家族と話し合い、必要性・安全性を説明させていただいてから対応している。また、介護保険・他の福祉施設についても必要性・要望があれば丁寧に説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る事は積極的にしていただき、共に生活していると感じていただけるように努めている。また、本人の出来る役割を見つけ、していただく事で共に暮らしているという共有の気持ちを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・受診の際に情報交換を行っている。必要に応じて家族に連絡をとったり、面会に来ていただいている。また、施設だよりの配布をさせていただき、施設を身近に感じいただけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも気軽に面会にきていただけるような環境づくりを心掛けている。親族の集まり・地元の集まり等、家族から相談があれば負担がないように説明させていただき、馴染みの繋がりに関する理解を求めている。	本人がこれまで培ってきた馴染みの関係やつながりが途切れないよう、家族に理解、協力を求めるなど身近なところから取り組まれています。	サービス利用前の生活を丁寧に把握するとともに、一人一人の馴染みの関係を丁寧に把握し、支援されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮して、定期的に席替え等を行い、コミュニケーションが深まるように支援している。また、意思疎通が困難な利用者様には職員が間に入り、関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、サービス終了後の支援についての説明をさせていただき、必要に応じて本人・家族の相談の受け入れ準備は整っているが、今の段階では、相談・支援についての要望はみられない。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らしの希望・意向については日々での会話などからくみ取り、把握できるように努めている。また、本人の訴えには、常に傾聴して安心・納得されるように丁寧に説明を行っている。	日々の生活の中から、本人の希望や思いを把握するように努めておられます。利用者の起床時間に合わせて食事を提供するなど個人に合わせた対応をしておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺ったり、日々の会話の中で把握できるように努めている。また、入所申込書・アセスメントシートを参考に生活歴等の情報を職員同士で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、関わりの中で状態の変化の気付きや出来事を記録・話し合う事で職員同士での心身状態の情報を共有して支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・主治医等の意見を反映させた介護計画にて支援をすすめている。また、カンファレンスにてより良く暮らすための課題を取り上げ・話し合う事で現状に適した支援が行えるように心掛けている。	利用者や家族の思いや意向を確認し、毎月モニタリングが実施されています。その結果に基づき、複数の職員でのカンファレンスを経て、介護計画が作成されています。計画は6か月ごとに見直され、状況・ニーズの変化に応じ随時見直されています。	現状や課題を共有し、計画に本人や家族の意向が十分に反映できるよう、ケア会議が本人、家族の参加により実施されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事など個別に記録し、職員間で情報が共有出来るように申し送りや、施設内会議等で話し合い実践や介護計画に反映されるように努めており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに迅速に対応出来るように、業務の申し送り・施設内会議・カンファレンス等で話し合いを行っている。また、サービスについても見直し、変更等があれば家族に分かりやすく説明させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を散歩などして地元慣れ親しんでいただけるように支援している。また、施設行事への参加の呼びかけ、地元の行事にも積極的に参加出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・訪問診療時には利用者様の現在の身体状態を主治医・家族に説明しています。また、急変などの受診・往診時には症状等を正確に分かりやすく記録をもとに主治医・家族に説明させていただいている。	入居時にかかりつけ医を確認し、受診継続されています。通院は基本的に家族が同行されており、状況により看護師がサマリーを作成し、普段の様子や変化をかかりつけ医に伝えたり、職員が同行するなど受診の支援がされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療に関することは常に看護師と情報交換を行い、状態変化の場合は相談し受診の必要性などの判断を仰ぎ、対応についても指示をいつでも受けられるような体勢を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報交換を行い、情報を共有している。また、ケアカンファレンスで退院後の支援・対応について話し合いを行っている。お見舞いにも頻回に出向き、利用者様の状態把握などの説明をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、家族・職員・看護師・主治医と事業所でする事について話し合い対応している。また、必要に応じての個別の緊急時対応マニュアルを作成している。	利用者や家族の意向を尊重し、主治医と事業所で相談し、重度化や終末期に向けた取り組みが行われています。現在、利用者2人の終末期ケアを行っています。職員研修の実施や個別の緊急時対応マニュアルを作成し、主治医と連携しながら支援がされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急の講習を定期的を受け、急変時の初期対応に必要な対応が出来るように努めている。また、急変時のために緊急連絡網を作成しており、スムーズに活用出来るように備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害・火災を想定した避難訓練を定期的に行い緊急時に備えている。また、地域の地区長・民生委員・消防団の方々にも避難訓練に参加していただき、火災時・災害時等における協力体制を築いている。	年2回の避難訓練では消防署職員の指導や地域住民の協力を得て実施されています。水害や夜間を想定した避難訓練が実施されていますが、災害時の対応手順が示されたマニュアルが作成されていません。	様々な災害を想定した、マニュアルを整備し、夜間時の体制確認や地域消防団との連携など明確にし、災害時に対する取り組みを強化されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を理解しながら言葉掛けに注意を払うように努めている。ゆっくりと伝わりやすい声の大きさを言葉かけを行っているが、とっさに出る言葉や馴れ馴れしい言葉使いも稀にみられる。	日々の会話や声掛けなど、注意を払うように努めておられます。気になる言葉使いが見られた場合は、管理者が直接指導しておられます。また、個人記録はキャビネットに保管しておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに問いかかけをゆっくりとして自己決定を待つように努めている。また、自己決定に迷われる場合には、選択肢を少なくする、職員と一緒に考えるなどの支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送り、日常のリズムをくずさないよう心掛け本人の意志・希望を尊重しているが、職員の業務、勤務人数等の問題で希望に添えない時も稀にみられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類の着用、本人の好みの衣類を着ていただいている。また、季節ごとの寝具管理・衣替え等の支援も実施しており散髪希望の利用者様には、出張理美容でのサービス手配を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物、季節感のある物を出来る限り提供出来るようにしている。準備や片付けが出来方方には手伝っていただいているが、出来る方が限られているという問題点もある。	献立は利用者と相談しながら決めておられます。食事の準備や片づけなどは本人の気持ちを重視し、できることをされています。誕生日には外食を計画され個々に対応しておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録して、水分摂取の少ない方、好まれない方には、好きな飲み物・口当たりの良いゼリー状にするなどの工夫をし、1日の水分摂取量が確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食物残渣が残らないように毎食後の口腔ケアを実施している。また、口腔内の清潔保持のために、うがい薬によるうがいも毎食後に行っている。うがいが出来ない利用者様にはガーゼにて口腔清拭を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排便パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。排泄動作では自分で出来る事はしていただき、排泄の自立支援を行っているが、オムツ等を中止するなどの改善がみえた方は今の所はおられない。	利用者の水分摂取量や排泄回数、時間等を記録しながら排泄パターンの把握に取り組みられています。その情報を職員間で共有し、トイレでの排泄支援を行っていただけます。また、便秘の方にはできるだけ薬に頼らず排便していただけるようマッサージ、漢方薬等による支援をしております。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の際には便通に良い食材を使う等の工夫をしている。水分摂取量の記録をとり、水分摂取の少ない方には多く飲んでいただけるように支援している。また、室内運動、散歩等で日中の活動支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調・希望にあわせ支援を行っているが、時間帯については職員人数が確保出来ている日中に限られている。	職員体制により入浴は日中に行われています。毎日入浴を希望される利用者はいませんが、清潔を保持できるよう本人の気持ちに寄り添いながら支援をしております。	本人のこれまでの習慣や希望に合わせて入浴できるよう職員体制等工夫をされることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・離床の際には、声掛けを行い本人のペースで寝起き出来るような支援を行っている。希望される方には午睡をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のはたらきについては確認出来ており、投薬時には職員同士で日付けや名前を確認している。また、ミーティングで排便の状況を共有して看護師・主治医の指示のもと用量等調節している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを積極的にしていただいております。行事活動を盛んに行い、気分転換・楽しみのある生活を支援している。また、誕生日の方にはお好きな物を召し上がっていただく夕食の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や日光浴などを行い気分転換をしていただいている。個別での要望も聞き取っているが、今の所具体的な希望がみられない為行事などによる外出の機会を増やし楽しみのある生活の支援を行っている。	庭で花の世話や体操をしたり、近所を散歩をしたりされています。事業所所有の車両が1台しかないため日常的な外出支援を行うことは難しいのが現状ですが、個々の外出については家族に協力を働きかけたり、誕生日には担当職員と外出をされています。	一人一人の習慣や馴染みの関係を見直すなど、本人の希望を丁寧に把握し支援されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の利用者様がお金を所持しておられ、外出の際に買い物をされたり、職員に買い物をお願いする事はあり金銭に対しての支援を行っているが、他の利用者の方はお金の所持はされてはいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、家族等に電話が掛けられるように支援している。また、手紙のやり取りにおいてもスムーズに行えるように利用者様の書いた手紙は職員が確認のうえポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を展示させていただいたり、季節に応じた花などを飾り、生活感・季節感を感じていただけるように工夫している。また、共同空間は常に整理・清掃を行い居心地よく生活出来るように努めている。	利用者の作品や季節を感じさせる花が飾られています。また、掃除を朝昼と2回行われており、清潔感のある居心地のいい空間づくりをしております。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間が狭く、独りになれたり、思い思いに静かに過ごせる場所がないため、机の配置や席替えなどをして工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際には馴染みの物を使用させていただくように家族には勧めているが、新しく購入される方がほとんどである。また、寝具・清掃等は職員が管理させていただき、居心地よく過ごしていただけるように努めている。	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや趣味のものを置かれるなど、本人が居心地よく安心して過ごせるよう環境づくりに努めておられます。また、各居室の窓辺には葦簀がに立てかけてあり、プライバシー保護と風通し良く自然を感じながら快適に過ごせるよう工夫をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部では危険物・不必要な物を置かず安全面を考慮して、利用者様がご自分のペースで安全に移動出来るように努めている。		

目標達成計画

作成日: 平成 26年 11月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時のマニュアルが火災時想定で作成されているので、様々な災害を想定したマニュアル整備が必要である。	災害への備えの職員間の情報共有・各災害ごとの避難訓練・各災害ごとの緊急連絡網の作成・災害時における地域消防団との連携などを考慮して、火災・風水害・地震等災害ごとのマニュアルの整備に努める。	・地域消防団との連携のとれた避難訓練の実施。 ・災害時緊急連絡網に近隣地元住民・消防団員の方々の連絡先の付属追加。 ・様々な災害を想定した定期的な避難訓練の実施。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。